



千葉県我孫子市立
我孫子第二小学校
元校長
鍵山 智子

「先生、バイク見せにきたよ！
…授業でのつばやきから」

私が、教師になって十年目が過ぎた頃、国語の時間に学校を周回しながらバイクのエンジンをふかす爆音が響いた。

その時、眼前の生徒たちに、「もしかして、〇〇中の卒業生かな？せつかく自分の母校にきたのに、学校の校門もくぐらず、先生方に顔を見せることもなく、バイクのエンジン音だけ響かせて、去っていくって、さびしくない？」と問いかけた。当時は非行傾向を示す生徒もいた。私は、バイクの爆音を聞くと、友人のバイクの後方に乗っていて、駐車場から出てきた車と衝突して弾き飛ばされ、十代の尊い命を奪われた教え子の方が思い出される話をした。車もバイクも現代生活や仕事に欠かせないものとなっているが、乗り方を間違えると大きな怪我

や時には、他人を巻き込む事故につながることもある。「将来、免許を取得するときに、自分の命や他人の命を大切にすることを忘れないでほしい」と伝えた。

それから数年がたち、ある晴れた日の放課後に職員室で事務を執っていると、「先生、バイク見せにきたよ!!」に聞こえ、ほ笑む懐かしい卒業生の顔があった。彼は、事務室で卒業生として学校に来たことを告げ、私に、バイクの免許を取り、アルバイトのお金を貯めて購入したという新品のバイクを披露しにやってきましたと語った。そして、前段の授業の話覚えていたので、後輩の活動の邪魔をしないように静かに駐車場にバイクを停めたという。当時の学年の職員や校長先生にもこの話をして、駐車場に彼の新品のバイクを見に行つて、各バイクの話やバイクを選んだ理由などを聞きながら、思いつく話や近況などを語り合った。人心地ついて彼は挨拶をするとバイクに乗り、静かに走り去っていった。その後数度、転勤するまで彼との交流は続いた。

今でも学び舎で出会った生徒一人ひとりが、授業の合間の生徒と私のつばやきも含めて、「自他の命を守る」ことを忘れずにいてほしいと願っている。

◆編集後記◆

編集長
大久保 俊輝



この瞬間も戦争で多くの命が奪われ続けている。これが子ども喧嘩であつたら教師は「やめなさい」と注意するだけであろうか。中に分け入つて引き離し、双方の言い分を聞いて、和解へと身を挺して導くのではないだろうか。この当たり前の事を何故できないのか。倫理も道徳も宗教もそして教育もその為に学んできているはずである。トルストイの「戦争と平和」には次のような言葉が登場する。「誰もが世界を変えたいと思うが、誰も自分自身を変えようとは思わない。」いかに才能に溢れて優秀と言えども、幼き者の命を奪う事に正義はない。喧嘩を傍観している大人に子どもは何を見るのだろうか。唯一出来る事は、どの人にも交わす「明るい先手の挨拶」であると私は伝えている。それこそが一番簡単で分かりやすい「戦争やいさかい」の予防となる平和の行動ではないだろうか。何事も分かりやすく、実践を持つて示す事がモラロジーの真義と捉えたい。

購読希望の方は、下記フォームをご利用ください。

(お問い合わせ先)

電話 04-7117-33219

E-mail kyoyiku@morology.jp

